



## 「なぜ人を殺してはいけないのか」再考

守山区 橋本政宏

ずいぶん前に「なぜ人を殺してはいけないのか」という問い合わせを社会にきわめたりがあった。新聞や雑誌で特集が組まれ、多くの知識人がそれぞれの専門分野から論じていた。この問い合わせを學問的に考察すること無意味ではないが、私はこの問い合わせにうまく答える能力は一般的には全く必要な力だと考える。加賀乙彦氏（作家・精神科医）は、「誰

も殺されたくないから」とあります。明快に述べた。新宿でこれを読んだとき、私は深い感銘を覚えた。

私は、この問い合わせにたいする哲学・倫理学的な分析よりも、人権思想の発展史を学ぶことがずっと大切だと思う。この問いは「道徳的規範」に対する問い合わせである。「道徳的規範や法的規範は究極的には土台である生産関係によって規定さ

れており、したがって歴史的に変化する」（社会科学総合辞典）一九九一年）。私たちは、歴史的制約のなかで考えているに過ぎない。

歴史学者の浜林正夫氏は

「民主主義の世界史『殺し

あい』から『話しあい』へ

（一九九三年）で次のように

述べた。「生きようとする努

力のなかで人びとは殺しあ

いをすることもあった。

ホップズは、生存が人間の

第一要求であり、そのため

に人間は「相手を滅ぼすか

屈服させるかしようと努力

する」（リヴィア・アサン）と述べた。だから人類は戦争を繰り返してきた。しかし

で他人の生存を否定するということは、他人もまた生きようと努力しているのだから、大きな矛盾を含むといわなければならぬ。この矛盾をどのようにして避けることができるのか、他人の生存を認めつつ自分も生きるという平和共存の知恵をどのように身につけていくのか、そこに人類のもうひとつ努力の積み重ねの跡がある。（一部改変しました）

現代を生きる私たちも、その歴史の真っただ中にいる。歴史は一直線には進まず逆流はあるが、大局的には人類は戦争の克服に向かって進んでいると考える。また、そうさせなくてはならない。深刻な地球環境問題の点から考えると、残された時間は決して多くはない。

●勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。  
●投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。